

ぎょうだの会社を ローズアップ!!

株式会社あさひ

廃ガラスのリサイクルで『行田から世界へ』



2018(平成30)年に創業してわずか7年で、廃ガラス再資源化に関する特許を取得し、国連工業開発機関(UNIDO)で紹介されるなど、行田から世界に進出しようとしている株式会社あさひを紹介します。

同社を創業した代表取締役の中村さんは、以前店舗開発事業などに携わっていましたが、その中で今後大量廃棄が見込まれる太陽光パネルのガラスが一部を除きリサイクルされず、廃棄されているという現状を知りました。こうした現実を前に、環境への負荷を減らし、ガラスを資源として再利用できるようにしたいとの思いで、この会社を立ち上げました。

創業後は廃ガラスの再資源化に関する3つの特許を取得した他、廃ガラスをリサイクルし、エッジレスで人にも環境にも優しい人工珪砂を使い、環境省が実施する環境技術実証事業(ETV事業)にも参加。2022(令和4)年から2年間の生体系などへの影響が大きく、実証評価のハードルが高い「海」での実証事業を行いました。

実証では、軽くてすぐに流されてしまう自然の砂に比べ、同社の人工珪砂の方

会社プロフィール

代表取締役 **中村 典雄**

【事業内容】 廃ガラス再資源化技術の開発・研究・活用サービスの提供、
廃ガラス・廃太陽光パネル再資源化機器の開発・販売、人工珪砂の製造・販売・物流事業

【所在地】 行田 12-12

が重く長期間堆積したことや、汚染物質が出ないことから、植物も十分に生育し、魚などが多く生息するという結果が出て、非常に高く評価されました。

また、同社が製造したガラスの砂を活用して、本市と「ある映画」で所縁のある琵琶湖の湖岸をビーチ化する事業も進めるなど、廃ガラスを新たな資源として活用する事業にも取り組んでいます。

最近では、同社の技術力や環境負荷の低減につながるガラスの活用サービスを聞きつけた、シンガポールやタイの事業者などが視察やガラスの買い付けにも訪れています。

今後の目標について中村さんは「現在の技術では完全なリサイクルは実現できておらず、リサイクルの過程で廃棄物が出てしまいます。当社の持つ廃棄物を出さないオンリーワンの技術を『行田から世界へ』と広げ、低炭素社会や資源循環社会、自然との共生社会の構築を目指していきたいです」と語ってくれました。そして「行田に『あさひ』あり」といつてもらえるような会社に成長させたいと、中村さんの視線は世界を見据えています。

※このコーナーで紹介する会社を募集しています。
特色ある業務を行っている会社の情報を広報広聴課(内線318)までお寄せください。

私の作品

○俳句応募方法 一人3句以内。毎月末日(必着までに、住所、氏名(ふりがな)、電話番号を明記の上、はがき・封書で広報広聴課。なお、一部添削して掲載する場合がありますが、不要であれば「添削不要」と記載してください。

二月尽ようやく馴染む新し帳 小見 川島 盾子	日脚伸び手押しカーットの油差す 富士見町 江利川敏夫
窓磨く骨こきこきと春来たり 門井町 宮田 淑尚	ふり払ふこころの澱や鬼は外 渡柳 大西 道子
死ぬるには少し間のあり野蒜摘む 和田 小林 博矣	薄墨の空より銀のしぐれかな 忍 大澤 由子
大和路に火の粉飛びかう二月堂 緑町 松林 真弓	節分会我家の鬼も高齢に 佐間 西岡 備中
苦にならぬほどの貧しさ露の臺 谷郷 羽石 芳道	春炬燵色紙だらけの洋食屋 佐間 島崎 房枝
藁苞の家で微笑む寒牡丹 馬見塚 村田 裕子	大試験終えて制服脱ぎ捨てて 埼玉 荻原 増夫
春北斗明日は母の退院日 藤原町 斎藤雄次郎	病む友の許へ落味嗜携えて 下忍 荒井 王子
獅子舞の前足宙をとらへけり 藤原町 斎藤雄次郎	病む夫の視線の先に黄水仙 富士見町 森 節子
紙程の薄水の池雲流る 棚田町 川鍋 幽覚	定規では画けぬ人生大霞 長野 鎌田 昇

来て! 見て!

図書館

と しょ かん

開館時間
午前9時～午後7時

休館日
4月 1日(火)・7日(月)・14日(月)・
21日(月)・28日(月)・30日(水)、
5月 7日(水)・12日(月)

※休館日の図書の返却はブックポストをご利用ください。

●市立図書館●

佐間3-24-7(「みらい」内)

TEL:556-4227
FAX:555-3770

令和7年度ブックスタート

▶日時 毎月第1・第4水曜日午前10時～正午※5・10月は月1回
▶場所 図書館ミーティングルーム
▶内容 絵本を通じて赤ちゃんと保護者が触れ合い、親子の絆を深めてもらえるよう絵本を1冊プレゼントします。また、絵本の読み聞かせや育児相談を10分程度行います。

▶対象 市内在住の2カ月以上1歳未満のお子さんとその保護者
▶持ち物 対象のお子さんの母子手帳

こどもの読書週間特別映画会

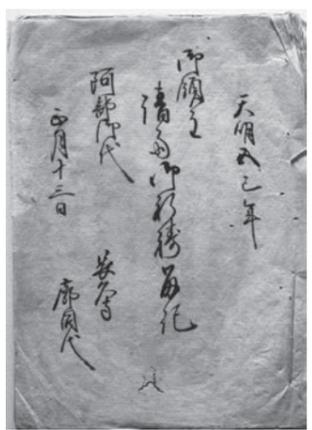
▶日時 4月29日(火)午後1時30分(午後1時10分開場)
▶場所 「みらい」映像ホール
▶内容 「君がいる、いた、そんな時。」(上映時間85分)
▶定員 70人(先着順)
▶入場料 無料

GW特別子ども映画会

▶日時 5月3日(土)午後1時30分(午後1時10分開場)
▶場所 「みらい」映像ホール
▶内容 「ドリーム・ビルダーズ ミナと秘密の夢工場」(上映時間80分)
▶定員 70人(先着順)
▶入場料 無料

図書館からのお願い

図書館内では、携帯電話での通話や大声での会話はご遠慮いただき、マナーを守ってご利用ください。また、本を借りた際は、書き込み、切り取りなどはせず、大切に扱きましょう。



御領主請雨御祈禱留記 (長久寺所蔵)

行田歴史系 373 忍藩の雨乞い祈願

農作物は干ばつや冷害、台風などの自然災害により収穫に大きな影響を受けます。水に恵まれていた忍藩領ですが、雨不足の影響は看過できないものでした。

天明5(1785)年1月は前年冬から雨が降らなかつたため、麦の生育に支障が出る恐れがありました。藩主阿部正敏は大坂城代として現地に赴任中でしたが、大坂の藩主周辺ではこの状況を心配して、雨乞いの祈禱の実施を指示しました。これを受けて国元では阿部家の祈願寺である長久寺に依頼しました。写真の「御領主請雨御祈禱留記」には、雨乞いに関する経過が記されています。

長久寺では、明和8(1771)年に雨乞いを実施したことがあるため、そのときの事例を参考に準備を進め、13日夜から祈禱を始め、初日は長久寺単独で、14日からは末寺の寺院も加わって祈禱を行

いました。そうしたところ14日午後2時ごろから雨が降り始め、夜には大雨となり、翌日午前8時過ぎまで降り続き、水不足の心配は解消しました。

その翌日には郡奉行から御礼の品と降雨を喜ぶ狂歌「君の代や長久自他の黎民の命を延る法力の雨」を添えた礼状が届きました。16日には郡奉行・代官が寺を訪れ直接お礼を述べ、大坂や江戸藩邸に報告する旨を伝えました。割役名主や名主たちからも礼金が届けられました。こうしたことから雨も降ったことを藩がいかに喜んでいたら分かります。

その後も雨乞いは続けられ、この年の6月には干ばつのため9日から19日まで雨乞いを行いました。このときは小雨程度で効果がなく、本降りとなったのは23日からでした。寛政2(1790)年は6月19日から雨乞いを始めて22日に雨が降り、同3(1791)年6月も18日から始めて最終日の24日に雨が降りました。

農作物の収穫具合は領民の生活や藩の年貢、藩財政に直結する問題です。自然相手ではできることはそう多くはないでしょうから、法力に頼ることは重要な手段だったのです。

(郷土博物館 鈴木紀三雄)